（別紙4-1）

NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	012902138		
法人名	社会福祉法人かがやき		
事業所名	グループホームかがやき　1階ユニット		
所在地	旭川市末広5条2丁目4番1号		
自己評価作成日	平成30年3月12日	評価結果市町村受理日	平成30年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0192902138-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームでの生活が長くなるにつれて、若干ずつ介護度が上昇しており、介護職員による担当制を取り、日々の変化等の把握に努め、また、担当者によるモニタリングを行ない、サービス計画に反映させ、日常生活の安定化に向けて取り組んでいる。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホームかがやきは、末広地区の閑静な住宅街にある。隣接して法人運営の有料老人ホーム、周辺に小学校やスーパー、薬局が立地し、地域住民と関わりながらの生活が継続できる環境にある。利用者の高齢・重度化傾向の中で、一人ひとりの利用者に寄り添い、丁寧な思いの汲み取りが行われている。本人のできる力を促して生活動作の維持をはじめとして、季節の行事や個別の外出を工夫したり、多様なボランティアの受け入れを図るなど、笑顔のある暮らしの提供に努めている。また、医療機関への受診同行は職員が行い、週3日常駐看護師と連携して、日々の健康状態の安定と変化の兆しに即応して、適切な医療に繋げている。終末期ケアは、利用者や家族の希望に沿い、職員全員のチーム力と質の高いケアで取り組んでいる。家族会とはバーベキューなどの交流行事を行い、担当職員による毎月の手紙で暮らしの様子を報告するなど、家族との信頼関係を大切にしている。職員間の協力が良好で、理念である「素直、謙虚、感謝、地域共生の4つの気持ち」は、職員の介護の支えとなり、安定感のあるアットホームな事業所を創っている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の仕事の中で理念を共有実践まで繋げてはいけていないが理念の中に地域共生を掲げ地域に溶け込めるよう努力している。	「素直、謙虚、感謝、地域共生の4つの気持ち」を理念として事業所の要所に掲示し、職員や外部の人に周知している。理念の実践は、毎月の会議等で日常の支援に照らし合わせて確認し、職員の意識付けを図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域を活性化するための集まりや地域の行事への参加で交流を持ち理解をしてもらうように取り組んでいる。	散歩や買い物等で交流しているほか、利用者と共に町内の観桜会や盆踊り、餅つき会に参加している。また、小学校の学習発表会に呼ばれたり、事業所の行事には舞踊等のボランティアの来訪があるなど、利用者が地域社会と繋がりながら暮らせるための機会作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や施設見学などを通して認知症への理解や支援方法に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用状況や月ごとの行事などの報告、また取り組んでいる課題などを報告し委員さんからの意見や提案を参考にしながらサービスに活かせるように取り組んでいる。	会議は、家族や地域代表、行政、知見者の参加を得て定期的に開催している。事業所の現状や活動状況を報告し、防災に関する協力要請をするなどして意見交換を行い、運営やサービスに反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修等の参加を通じ事業所の実情や取り組みを伝える機会を持つことで協力関係を築けるように努力している。	市や地域包括支援センター主催の研修会に参加し、サービスの質向上に取り組んでいる。市の担当課に事故報告など書類提出に出向いたり、保護に関して情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に積極的に参加し、その得た知識をミーティング等で職員とも共有し介護に取り組んでいる。	身体拘束に関する委員会を設置し、年1回の内部研修や月1回の会議の場で拘束にあたる内容の理解を深め、気になる言葉掛け等も注意し合っている。利用者の自由な生活の重要性を認識し、安全面に配慮した一時的施錠やセンサーの使用も、確認検討し実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が問題となっている事を受け研修への参加やその知識を共有し、職員同士がその状況に目をそらす事のない様努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については少しずつ知識をもてるようになっており利用者も出てきているが職員全体には内容や必要性の理解はまだ十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族に不安や疑問点を持たれぬ様に十分な説明を心掛け理解を得られるように努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見要望は管理者、また職員が受け止め対応し、その要望等を事業所での行事や研修に生かしていく様努力している。	家族会の総会や交流行事が行われ、面会や電話連絡を通しても家族と密に対話を図り、意見等を得た場合はサービスに生かすように心掛けている。また、年数回の通信や担当職員による毎月の手紙で利用者の様子を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で運営に限らずさまざまな場面での意見、提案を聞き、その目標や改善点などに反映されるように努力している。	管理者と職員の意思疎通が良く、日常業務の中は勿論のこと、申し送り時やユニット、全体会議等で積極的に意見を交換している。利用者支援を中心に協議が行われ、業務改善については検討して実現に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全体の仕事への取り組み方や日々の努力を把握し、コミュニケーションを取りながら良い職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の知識、経験、力量を把握し、ひとり一人がスキルアップ出来るよう研修への参加や実践でのトレーニングなどに取り組めるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターとの繋がりの中で他事業所との交流を持ち意見交換などで自身の質の向上にも繋がるように努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人、ご家族から要望、疑問点を聞き、不安なく安心して生活できる環境作りをして行くことを伝えそこに向け努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望等にしっかりと耳を傾け、情報を共有しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供の開始段階で、本人、ご家族が今何を必要としているか医療面も含め支援、対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者との生活を共有していると考え、喜びや不安を共に出来るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いをご家族と共に共有し、本人の希望に寄り添えるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか馴染みの場所へ出向くことは困難になっているが、馴染みの人の面会などで関係が途切れないように努力している。	友人等の来訪時はゆっくりと面会できるよう対応し、関わりの継続を大切に支援している。通い慣れた床屋や美容室に職員が送迎し、入居後に顔馴染みとなった美容師やボランティアと楽しく会話を弾ませる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話のきっかけを作ったりレクレーションなどからの関わりをお手伝いしながら孤立の状態を作らないように努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も必要に応じご家族の相談等に対応出来るように努力している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全ての希望、意向に沿うことは出来ない部分もあるが、思いはご家族と共有しながら希望に近付けるように努めている。	日常場面から利用者の意向を聞き取り、特に入浴など個別対応時のつぶやきや、家族や継続的な関わりを持つ人からも本人の要望等の理解に繋げている。表情の変化や身体表現も見逃さず記録に落とし、全体で共有している。出来る限り本人の思いに沿うケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族から解る中での生活歴や環境を聞かせてもらい、今後のサービス提供の中に活かして行けるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やカンファレンス、また日々の申し送りなどでひとり一人の状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせるために本人の希望や今必要なケアをご家族、職員で話し合い介護計画作成に反映させるように努力している。	介護計画は、3ヵ月毎に全職員でモニタリングとカンファレンスを行い協議している。本人と家族の意向を踏まえ、その人らしく生活できることを主眼に新たな計画を作成している。日々の記録で計画に対する実践を確認し、次回の見直しに反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々のケアや実践結果等を記録し、それを職員間で日々共有することで介護の見直しや今後の新たな実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、またご家族の状況に対応しながら、可能な所の支援やサービスを提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランテイア等を活用したりしながら少しでも利用者の心身が豊かになるような地域資源の活用に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望を最優先しながらかかりつけ医を決め、常に連携を持ちながら適切な医療を受けられるように支援している。	希望するかかりつけ医の継続を支援し、職員同行でスムーズな受診が可能となっている。状態変化などで家族と話し合い、往診診療に変更する場合もある。配置看護師が週3日常駐し、日常的な健康管理の体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の体調の変化を把握し、看護師に報告、指示を貰うことで適切な処置、受診などに結び付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、また入院期間にも相談室や主治医との情報交換を密にしながら早期回復、早期退院に繋がるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族の意向を確認し、入居後に体調の変化があった時、ご家族と段階的に話し合いを持ちながら本人、ご家族、事業所が同じ方向性が持てるように努力している。	入居時に重要事項説明書で重度化や看取りに対応する指針を説明し、同意書を交わしている。状態の変化では再度家族と話し合い、医療とも連携を取りながら、チームとして方向性を共有している。利用者と家族の望む終末を丁寧に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に研修、訓練を受けることで緊急時にも落ち着いて対応出来るように努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害に対しての訓練を行ない職員の意識を高めると共に、地域への協力体制を推進会議などを通して発信し協力を貰って行けるように努めている。	今年度は3回、消防署や消防設備業者の指導のもと、夜間や夜間想定の避難訓練、非常時呼集や避難場所への移動、水害を含む日中想定等の訓練を行っている。隣接する系列施設との連携体制を整備している。	防災マニュアルを策定しており、想定される災害や停電、断水等の対応策の確認や、必要とする非常用備品の準備を進める事を期待する。また、地域住民の参加を得た訓練の実施も期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はひとり一人の人格を尊重しながらプライバシーにも最善の配慮をし、傷つけたりすることのない様に対応している。	法令順守の研修のほか、接遇改善の担当職員から発題を受け、職員間で話し合う機会を設けている。人格尊重やプライバシーの配慮を意識し、利用者が不快にならないケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で職員の考えを押し付けることなく、本人が自己決定を出せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や急な受診、また本人の希望する過ごし方に、対応出来る中で希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や清潔な身だしなみ、メイクが出来るように見守り、支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が準備や片付けを一緒にすることは困難になっているが職員と同じ食事をしながら会話をしたり、テーブルを拭いて頂いたり、本人の好物を誕生会に提供して楽しんで頂いている。	隣接の系列施設から栄養管理された副食やおやつを取り入れ、嗜好調査で好みの反映に努めている。皆で食卓を囲み、家庭的な食事風景である。季節の行事食や出前、誕生日は本人希望の食事で祝い、食の変化と楽しみを多く取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日チェック記録し、ひとり一人の体調の変化や管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ごとに口腔ケアを促し清潔を保ち、義歯についても一日1回洗浄することを勧め清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は自立されている方が少ない中でその人にあった排泄方法を見つけ時間を見ながらの声掛けや誘導をすることで少しでも自立に向けた支援が出来るように支援している。	個別の排泄リズムや状況を理解し、トイレでの排泄を基本にしている。時間や仕草を見ながら排泄機能や心身の状況に沿った自立支援を行っている。介助時は言葉を掛けながら不安感や羞恥心に気を配り、下着や衛生用品は本人の快適さを考慮して使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量をチェック、把握し、排便確認と職員間の情報共有、また主治医との連携で予防や対策に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとり一人の希望に沿う時間やタイミングでの入浴は難しいが、少しでもゆったりと出来るように支援している。	週2回曜日を決め入浴を支援しているが、希望があればできる限り対応している。入浴を億劫がる場合には、言葉掛けを工夫し気持ちよく入浴できる雰囲気作りをしている。湯船でゆったりとした入浴や、浴室を十分温めたシャワー浴など、心地よい入浴環境に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活のリズムや体調を把握し、その人にあった休息や睡眠が摂れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診や訪問診療で薬に変更がある時は必ず記録や申し送り等で職員に周知すると共に利用者の変化の確認も行なっていくよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日会話をしたり一緒にお手伝いをして頂くことでお互いに張りが出たり、ご家族から貰う嗜好品を皆さんで分けたりなど小さなことでの喜びや楽しみを感じられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況に応じドライブ、散歩、ご家族との外出など対応出来るところはして行き、職員だけではなくご家族の協力ももらいながら支援している。	全員揃っての外出は難しいが、季節の良い時期はテラスで日光浴やティータイム、菜園の収穫を楽しみ、周辺の散歩や買い物に出掛けている。事業所車両で数名づつで紅葉や桜見物のドライブをしたり、家族の協力も得ながら戸外に出て気分転換と楽しみの機会作りに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方にはご家族の了解の下預かり金として対応し、その中から本人の希望する物や必要なものを買うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望する時は対応のお手伝いをし、手紙については書くことが困難な方には代筆や近況を報告するなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の生活空間を突然変えてしまったり、利用者にとって落ち着けない状況を作らないように、その事で混乱などを招くことのないように努めている。	居間は窓からの陽射しが明るく、食卓やソファーの配置もゆったりとして開放的な空間になっている。清掃が行き届き、濡れタオルの活用や加湿器、クーラーの設置などで、不快感や混乱に配慮した環境を整えている。季節感のある装飾や観葉植物、利用者の作品も掲示され、居心地よい場になるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	１人の時間は居室のみとなってしまうが１人の時間を作り身体を休めたり、共有空間では会話を楽しんだりテレビを観たりと自身で工夫をしながら過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や大切なものを身近に置いていただく事で安心感や心地よさを持っていただけるように工夫している。	介護用ベットやロッカー箪笥が備えられた居室に、馴染みの調度類やテレビ、生活雑貨が持ち込まれている。簡単な片付けや毎日写真にお茶を供える利用者もおり、できる事を見守りながら安心して過ごせる居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレには区別の出来るような目印となるものを用意したり、自由に動ける中でも安全性に配慮しながら安心して生活できるように工夫している。		